

調湿用木炭を住宅の天井
裏や床下に敷き詰めること
によって、エアコンの消費
電力が平均24%減る節電効
果があったという実験結果

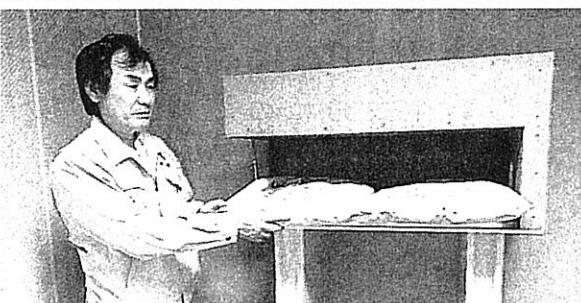
断熱効果で、天井裏を冷や
す余分な電力が要らなかっ
たとみられる。今冬は、暖
房での効果を実験で検証す
るという。

同社は建設市場の縮小を
機に、廃木材のリサイクル
に着目、室内の湿度を調節
する機能がある木炭を商品

島大と建築会社実験

今冬、暖房検証へ

木炭使い節電 工アコン24%



天井裏に木炭を敷き詰めるイメージを説明する出雲土建の石飛祐司社長(左)、松江市殿町の県庁

布の袋に入つており、天井裏や床下に置いて使う。

2001年に同大と共同研究を始め、02年に発売、脱臭や防音効果を実証してきた。06年には、同大医学部との共同研究で、アトピー性皮膚炎や小児ぜんそくの症状が和らいた事例を学会で報告した。湿度が調節されたことでカビの発生が抑えられたためという。

今回の実験では、出雲市「出雲土建」(出雲市、石飛裕司社長)がまとめた。木炭の隙間の空気層による

の賃貸マンションの隣り合い状態だった。床下も温度が1平方㍍あたり8千円程度。木炭は入れ替えることなく、半永久的に使えるといふ。

(斎藤智子)

の賃貸マンションの隣り合い状態だった。床下も温度が1平方㍍あたり8千円程度。木炭は入れ替えることなく、半永久的に使えるといふ。

い状態だった。床下も温度データをとり、断熱効果を調査中という。

中井准教授は「木炭は多機能な建築材料。省エネを考えた住宅の構造設計に生かしてほしい」、石飛社長は「エアコンを使わなくて済むという入居者の声にヒントを得て実験をした。暖房はより節電効果が高いと考えられる」と話している。

島根大材料プロセス工学科の中井毅尚准教授による施工費用の目安は、天井が1平方㍍あたり8千円程度。木炭は入れ替えることなく、半永久的に使えるといふ。